

1000台クラスも完璧に！ 全国展開するホール清掃のプロ

店舗クリーニング「日常清掃」「定期清掃」



「日常清掃」は台まわりの拭き上げから、床の掃除機がけ&モップがけ、トイレ掃除、吸い殻回収、ゴミ袋の交換までのすべてをこなす。妻板や台間パーテーションもおまかせ



「定期清掃」は経費削減にもひと役。例えばエアコン。フィルターや集塵装置の清掃を定期的に行うことで、経年劣化を防ぎ、機械寿命が2倍近く変わることがあるとか



トイレ掃除も徹底的に。名古屋や福岡に営業所を持つワンダフルクリーンだが、東北地方や関西地方へも社員が足を運び、現地採用の清掃員を指導・管理し、派遣する体制をとっている

2

008年度を底に、有効求人倍率が上がり続けている。今年が0.45倍だったのに対し、今年の上半期は1.3倍。単純計算ではあるが、「3倍も人が集まりにくくなっている」とも言えるのだ。事実、エリアによっては、「人材の奪い合い」が始まっているところもある。

なんとか採用できても、人材の質は低下。募集コストはかかるは、教育コストはかかるは…。

今後、ますます人材不足が深刻化する中で、業務のアウトソーシングは必須課題といえるだろう。

そこで紹介したいのが、約2000人の人員を抱え、ホール専門の清掃会社として28年の実績を持つワンダフルクリーンだ。

現在、同社では約450店舗の「日常清掃」（閉店後や開店前、営業中などの清掃）を担当。東京や埼玉に一番店を多く抱えるホール企業や新宿区に強い地盤を持つホール企業など、厳しい目で業者を選定することで知られる有力法人に選ばれている。

さらに、人員の手配を含め、特に管理が難しいとされる1000台規模のホールの清掃も得意とするところ。

「ただ掃除しているのと、管理された清掃ができているのは、まったく違います。巨艦店では、どうしても形だけになりがち。すでに外部委託しているホールさまざまでも、もし、『このレベルが普通

なの？』と疑問を抱いているのなら、ぜひ一度、当社の清掃を試していただきたい」（同社企画室・矢口良平副室長）

また、遊技人口の減少やイベント規制により、集客が難しくなっているのはご存じのとおり。一度、来店した顧客をつかんで離さないためにも、店舗の美観維持は欠かせない。

風除室に虫の死骸があったり、装飾品に付いたホコリまみれの蜘蛛の巣が揺れていたりする光景を見かけることがあるが、そんなホールに行きたいと思うだろうか？ ヤニ汚れや尿の染みも同様だ。

ワンダフルクリーンの「定期清掃」では、「汚れる前に清掃する」をモットーに、月に1〜2回、または数カ月に1回、床や壁、天井、エアコン、ガラス、備品などを徹底的にクリーニング。死角となっている部分も、プロならではの薬剤と用具で磨き上げてくれる。

さて、気になる費用だが、ビル管理会社が下請け・孫請けを通じて清掃員を派遣しているケースが多いのに対し、同社は「直取引。中間マージンが発生しない分、「ホールさまに『安い』と言われる方が多い」と矢口副室長。

取り引き先のホールからかけられる言葉で一番多いのは、「ありがとう」だという。そのひと言に、ワンダフルクリーンが行う清掃への信頼の高さが表れているといっても過言ではないだろう。